

「共同輸配送デジタルマッチング」 有効性について

～経済産業省北海道経済産業局“共同輸配送デジタルマッチング事業”報告～

2025年2月17日

一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会 理事

株式会社traevo 代表取締役

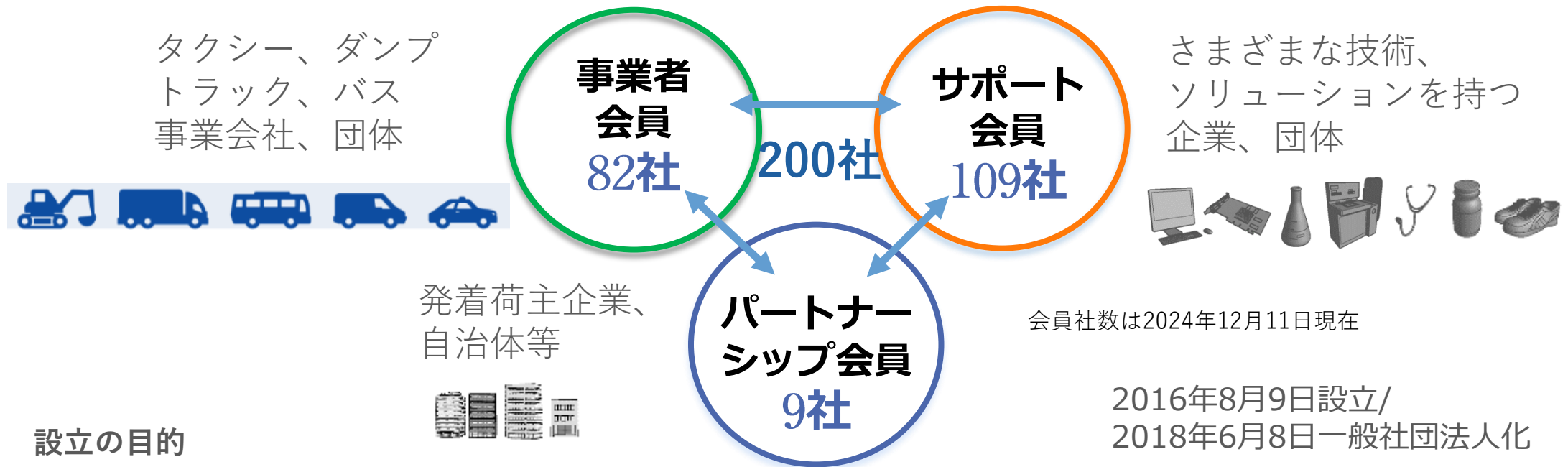
鈴木久夫

一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会について

設立の背景

運輸は産業や社会の基盤、中小企業が99%以上、さまざまな業界課題

①1社では解決が難しい、②同じ課題を各社で解決



運輸業界と、ICTなど多様な業種のサポート企業、およびパートナーシップ企業が連携し、デジタルテクノロジーを利用することで運輸業界を安心・安全・エコロジーな社会基盤に変革し、業界・社会に貢献する

TDBCから生まれたtraevo



WG05（ワーキンググループ） 「動態管理プラットフォーム の社会実装と活用」研究チーム

2016年設立 会員数約200社

一般社団法人
運輸デジタルビジネス協議会

運輸業界と多様な業種のサポート企業が
連携し、デジタルテクノロジーを活用して
運輸業界を安心・安全・エコロジーな
社会基盤に変革



株式会社 traevo

TDBC会員の活動成果を、運輸および
関連する業界に

プラットフォームとして
「持続可能」な形で社会実装する

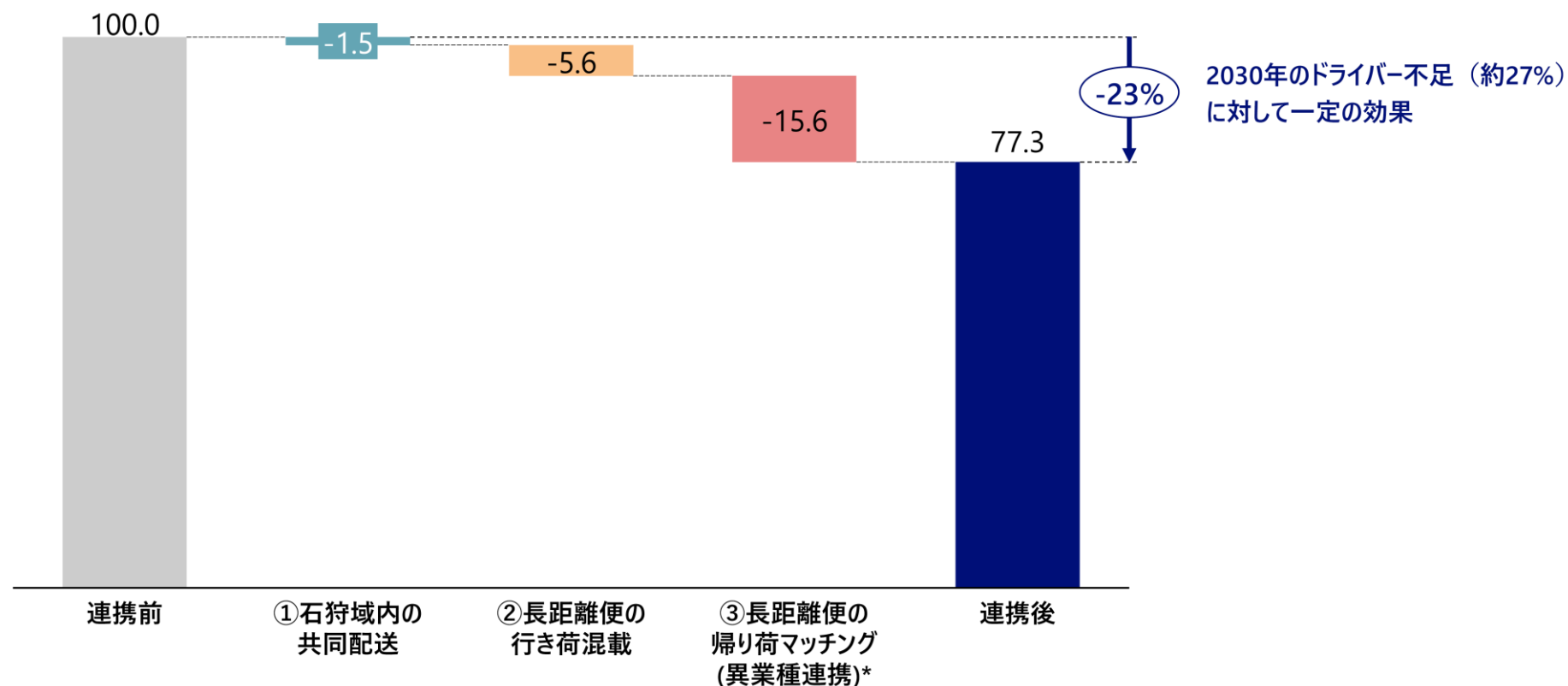
2022年設立

「営利を目的とせず」オープンなプラットフォームとして社会課題解決を目指す

長距離便の帰り荷マッチングの影響

- ドライバー不足に対して、**最もインパクトが大きいのは、「長距離便の帰り荷マッチング」**

総走行距離と連携効果（現状を100とした時のシミュレーション結果）

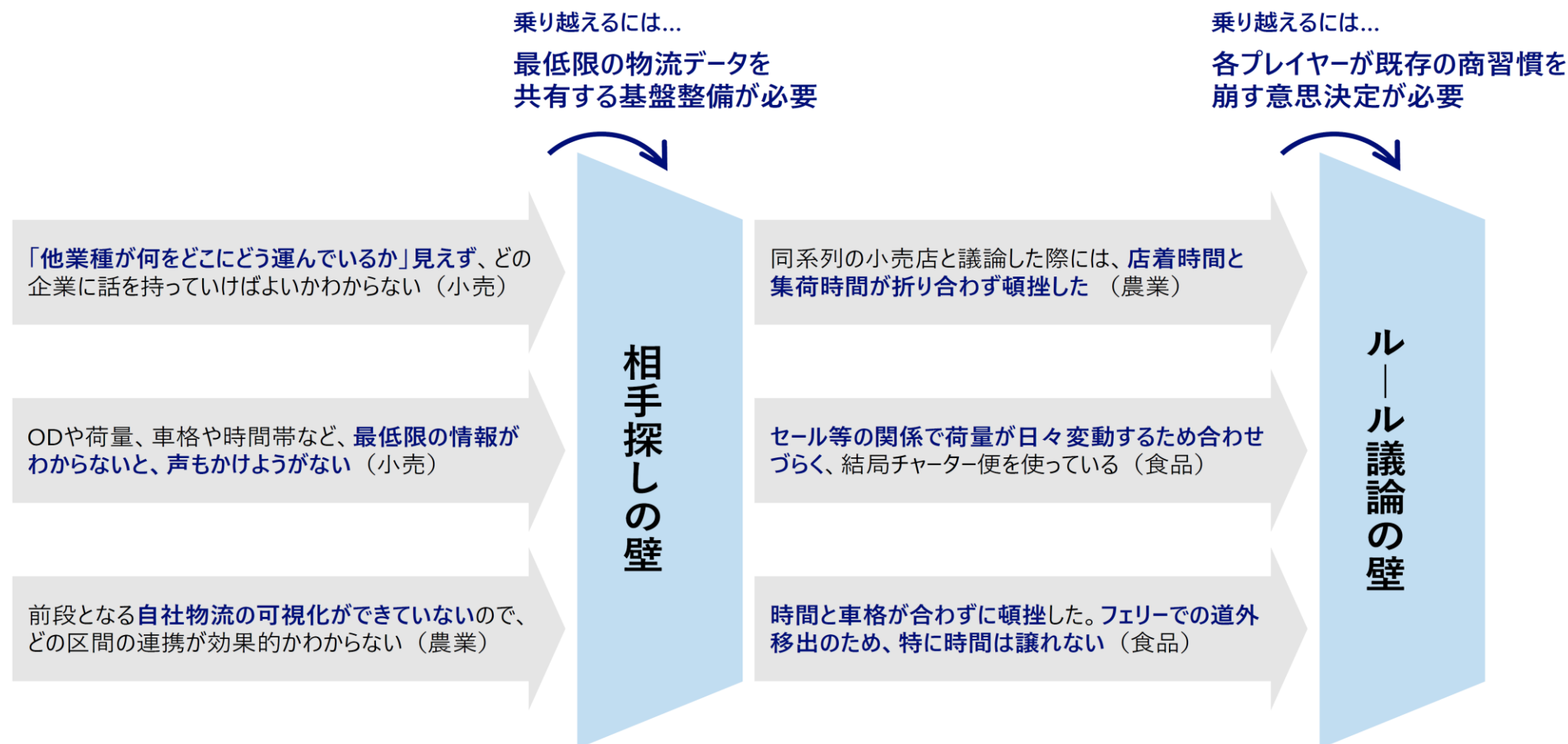


※帰り荷の空車・未積載分のうち、札幌からその他地域に向かう軽工業品・雑工業品の貨物量に対する、その他地域から札幌に向かう農水産品の貨物量の割合だけ帰り荷が確保できると仮定

出所）イオン北海道、北雄ラッキー、トライアル、西友の配送データをもとにNRI 推計

異業種連携の可能性と課題

- 共同輸配送の実現について、実際には「相手探し」、「ルール議論」の段階で頓挫していることが大半。
- それぞれの壁を乗り越えなければ、3割のモノが運べなくなる未来を避けられない。



共同輸配送の促進及び課題

- 経済産業省北海道経済産業局では、共同輸配送等を促進するため、国土交通省北海道開発局・運輸局及び北海道との共催により、企業間物流マッチングイベント「ロジスク」を開催。他方、**一層の共同輸配送を促進するためには、物流データの可視化による事業者マッチングの推進が重要。**

物流に関する実態把握調査

- 共同輸配送の浸透等により、積載率を向上させることで、ドライバー不足がほぼ解消。
- 道内流通事業者の荷動きをみると、道央圏から地方圏への行き荷の積載率は高いものの、帰り荷は空車等になっていることが多く、帰り荷の確保が大きな課題。

物流マッチングイベント「ロジスク」

- 経済産業省北海道経済産業局では、北海道内における共同輸配送等を促進するため、国土交通省北海道開発局・運輸局及び北海道との共催により、企業間物流マッチングイベント「ロジスク※」を開催。
- 荷主事業者や物流事業者間の交流を促し、自社の抱える物流課題などに関する意見交換の場を設けることにより、共同輸配送等の連携促進を実施。

※ロジスティクスとスクラムを合わせた造語で、ワークショップによる共同輸配送等の実現に向けた企業間マッチングイベント。



参加企業の約6～7割から引き合いがあるなど、共同輸配送の促進が期待される

北海道における一層の共同輸配送を促すためには、
**イベント開催によるマッチングのみならず、物流データの見える化によって、
広くマッチングできる仕組みの構築が重要**

TDBCによるデジタルマッチングシステム

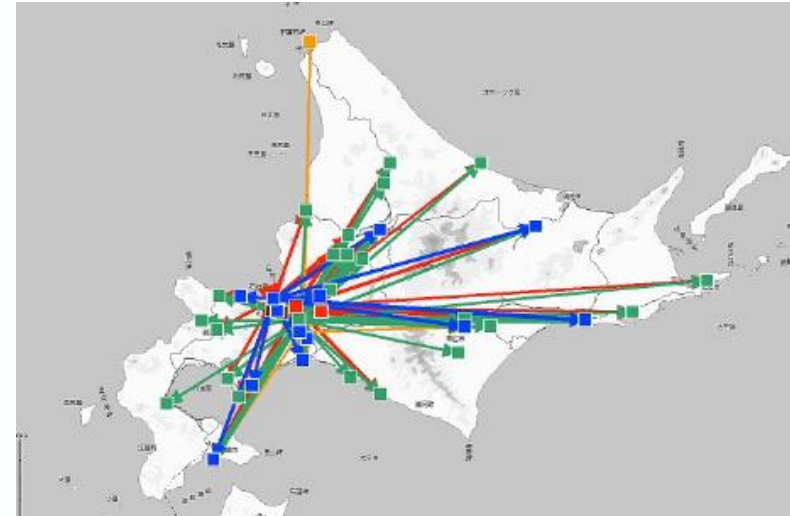
- 一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会（TDBC）では、異業種・複数企業間での共同輸配送を活性化することを目的に、独自の車両動態管理システムを活用し、デジタルマッチングシステムを開発。

TDBCによるデジタルマッチングシステム

TDBCのパイロットシステムを活用



デジタルマッチングシステムの開発



荷主が自社貨物の「積み地」「降ろし地」を登録
運行実績・頻度・車格等を可視化し共同輸送を希望する他企業を検索
往路混載・帰りの便の（各種条件による）相手先検索が可能

共同輸配送デジタルマッチング事業の概要①

- 経済産業省北海道経済産業局では、物流データの見える化による事業者マッチングを促進するため、関係機関と連携し、**全国で初となる共同輸配送デジタルマッチング事業を実施**。
- 共同輸配送デジタルマッチングシステム上でのデジタルによる事業者マッチングを推進することにより、**北海道内におけるより一層の共同輸配送の促進を図る**。

共同輸配送デジタルマッチング事業の概要

○事業内容：

共同輸配送デジタルマッチングによる動向分析・効果検証

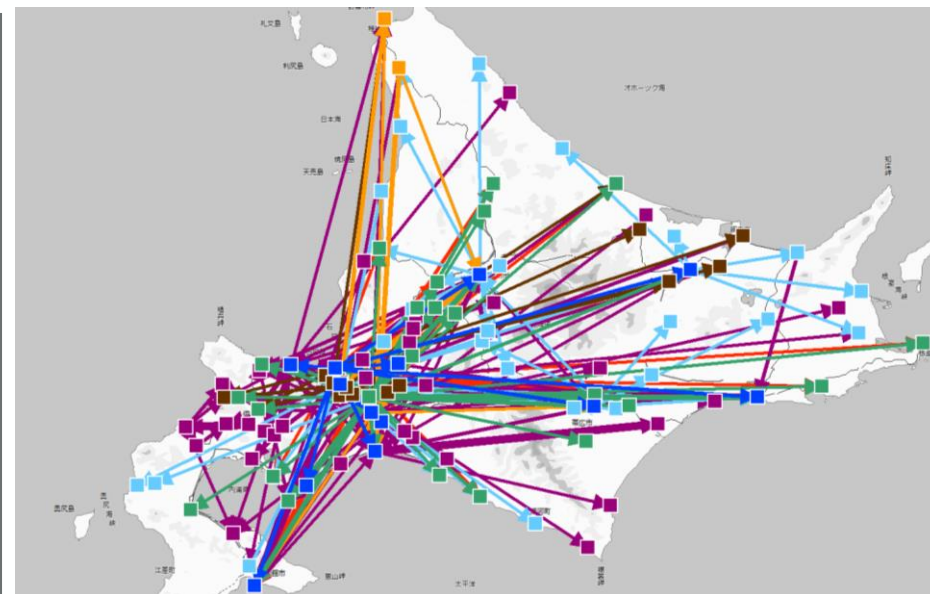
混載や帰り便の貨物手配などの共同輸配送に取り組む意向をもつ事業者を対象として、システム上で共同輸配送のデジタルマッチングを促すためのサービスを提供するとともに、北海道内における輸送情報の集約化・データ化を行う。

本事業を通じて得られた物流データ等を活用し、共同輸配送等の動向及びデジタルマッチングに関する効果検証を行う。

○連携先：農林水産省北海道農政事務所、国土交通省北海道開発局・北海道運輸局、北海道

○事業期間：2024年12月12日（木）～2025年1月31日（金）

○事務局：一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会（TDBC）



物流データを可視化することで、常時、共同輸配送に関心をもつ事業者同士のマッチングが可能となり、一層の共同輸配送の促進が期待できる

共同輸配送デジタルマッチング事業の概要②

- 共同輸配送デジタルマッチング事業では、共同輸配送に関心をもつ事業者の輸送情報を登録することによって、**北海道内における物流情報をデータベース化**。
- 登録された輸送情報の中から、**出発地や到着地など条件で検索し、条件の合う事業者との間で共同輸配送を検討**することにより、デジタルデータを用いた共同輸配送のマッチングを実現。

共同輸配送デジタルマッチングシステムの利用の流れ

①輸送データ（出発地・到着地・輸送量等）を登録様式に入力・送付

- 共同輸配送デジタルマッチングシステム上に匿名化して登録される
- 登録事業者に対して検索システムのアカウントが発行される



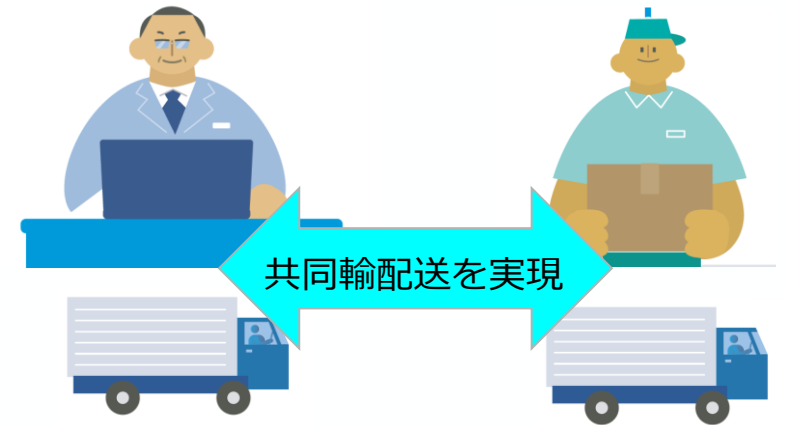
②発行アカウントを用いて必要条件を入力しマッチング候補を検索

- 条件の合う事業者の輸送データが表示される



③検索で見つけた候補事業者について事務局に問い合わせ

- 事務局が仲介し、候補事業者の了承の下、両事業者間でのみ事業者名が公表される
- 候補事業者と直接連絡をとり、共同輸配送を検討できる



輸送情報を登録することで共同輸配送のマッチング候補事業者が見つかる



共同輸配送デジタルマッチング事業の概要③

- 共同輸配送デジタルマッチング事業への登録に必要な輸送データは、トラックの出発地・到着地、毎月の輸送量、車種・車格、その他のオプションのみ。
- 登録様式に必要な輸送データを記入し、電子メールで事務局に送付。発行されるアカウントでマッチング候補を検索することによって、条件の合うマッチング候補事業者と共同輸配送を検討。

登録に必要な輸送データ

- トラックの出発地
- トラックの到着地
- 毎月の輸送量
- 車種（平ボディ、ウィング車、トレーラー等）
- 車格（2 t、4 t、10 t、20 t等）
- その他のオプション（ダンプ、冷凍、冷蔵等）

登録方法

登録様式に必要な事項を記入・電子メールにて送付

※入力いただいた情報は、匿名加工の上で共同輸配送デジタルマッチングシステム上に反映させていただき、事業期間のみ登録の上、動向分析・効果検証に使用させていただきます。また、個人情報については、その保護に万全を期すとともに、原則として、第三者へ開示・提供することはありません。

※共同輸配送デジタルマッチング事業への登録やシステムの利用によって、登録事業者間で生じたトラブル等については、一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

帰り便マッチングの検索例

積み地・降し地/回送時間・距離/車種/車格等で検索

126件

検索する

クリア

検索対象

☐ 混載 ☒ 単独

自社往路

エリア 北海道

拠点 北海道帯広市

自社復路

エリア 北海道

拠点 北海道 広島市

回送条件

☒ 回送距離 50 km以内

☐ 回送時間 60 分以内

車種

☐ ラック ☐ ウィング ☐ 平ボディ ☐ すべて ☐ 箱車

☐ レーラー ☐ ウィングセミトレーラー ☐ ウィングフルトレーラー ☐ 平セミトレーラー ☐ すべて ☐ フラット

発拠点候補

初期広大平

石狩発

着拠点候補

初期広大平

帯広着

CSV出力: 0件

ユーザーID	共同輸送 発拠点		共同輸送 着拠点		往復回送距離	車種	車格	合計 往	23/10	23/11
	市区町村	回送距離	市区町村	回送距離						
A社	江別市	13km	帯広市	0km	13km	箱車	6	5840	496	480
B社	北広島市	0km	中札内村	25km	25km	箱車	7	366	31	30

検索結果

共同輸配送デジタルマッチングシステム検索画面（例）

[お知らせ](#)
[自社車両公開](#)
[他社車両公開依頼](#)
[動態管理](#)
[管理](#)

[Google Chrome をカスタマイズしてご利用ください。ブラウザが利用可能バージョン: 113.0](#)
[北海道開発局](#)
[北海道開発局](#)

[車両](#)
[運行](#)
[共同輸送 \(仮\)](#)

1 件

検索する

クリア

自社往路

エリア

都道府県 未選択

拠点

北海道北見市

▼

自社復路

エリア

都道府県 未選択

拠点

北海道苫小牧市

▼

回送条件

回送距離

50

km以内

回送時間

60

分以内

車種

(複数選択可)

トラック

すべて

ウイング

平ボディ

箱車

トレーラー

すべて

ウイングセミトレーラー

ウイングフルトレーラー

平セミトレーラー

平フルトレーラー

その他

すべて

ジェットパック

ローリー

ダンプ

発拠点候補

初期拡大率

30 km

Leaflet | © INCREMENT P CORPORATION 利用規約

着拠点候補

初期拡大率

50 km

Leaflet | © INCREMENT P CORPORATION 利用規約

北見発

苫小牧着

マッチング候補

CSV出力 : 0 件

	ユーザーID	共同輸送 発拠点		共同輸送 着拠点		往復回送距離	輸送実績						
		市区町村	回送距離	市区町村	回送距離		合計	23/3	23/4	23/5	23/6	23/7	23/8
☐	A社	北広島市	39km	北見市	0km	39km	872	77	74	75	78	74	74

共同輸配送デジタルマッチング事業の結果①

- ・ <ニーズ> 共同輸配送デジタルマッチング事業において、年末年始を跨ぐ約1カ月の事業期間の中、1,743ルート（44事業者）の登録があり、約5%のルート（2割以上の事業者）にマッチング希望があった。
- ・ <有効性> 登録ルートの分析検証では、「道央」と「地方」間の約300ルートで共同輸配送マッチングの可能性が示され、今後、長距離便の共同輸配送マッチングに期待。

共同輸配送デジタルマッチング事業の結果

事業期間	2024年12月12日（木）～2025年1月31日（金）
登録数	<u>1,743ルート（44事業者）</u>
マッチング希望数	<u>82ルート（10事業者）</u>

※希望申請ルートの共同輸配送について、随時、協議・検討を実施中

登録事業者の2割以上、登録ルートの約5%がマッチング候補に！

共同輸配送デジタルマッチング事業の分析検証

共同輸配送マッチングの可能性	道央地域－道南・道北・道東地域間 <u>295ルート</u>
----------------	--------------------------------

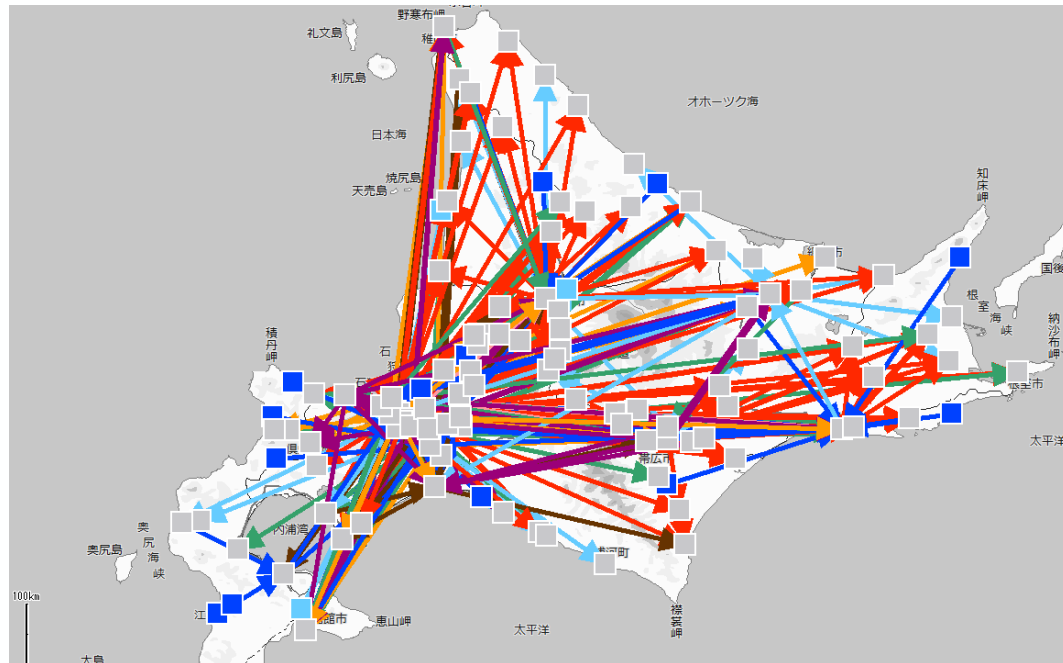
※回送距離（空送距離）を50kmと設定

北海道における長距離便の共同輸配送に可能性あり

共同輸配送デジタルマッチング事業の結果②

- 本デジタルマッチング事業における登録ルートを地域別に分析検証すると、札幌をはじめ、道内都市部を発地とする輸送が多く、全体として、**都市部から地方部への輸送量が多い傾向**がある。
- また、**輸送量の大きな事業者は都市部、輸送量の小さな事業者は地方部を発地とする傾向も一部みられたこと**から、荷動きなどの異なりも含め、各々の参画促進が今後の効果的なマッチングに寄与するものと考えられる。

共同輸配送デジタルマッチング事業の結果



デジタルマッチング事業からの傾向考察

○都市部から地方への輸送量が多い傾向

- 札幌をはじめとして、道内都市部を発地とする輸送が多い傾向があり、地方部から都市部への輸送と比べると、輸送量にギャップが生じているように見受けられる。

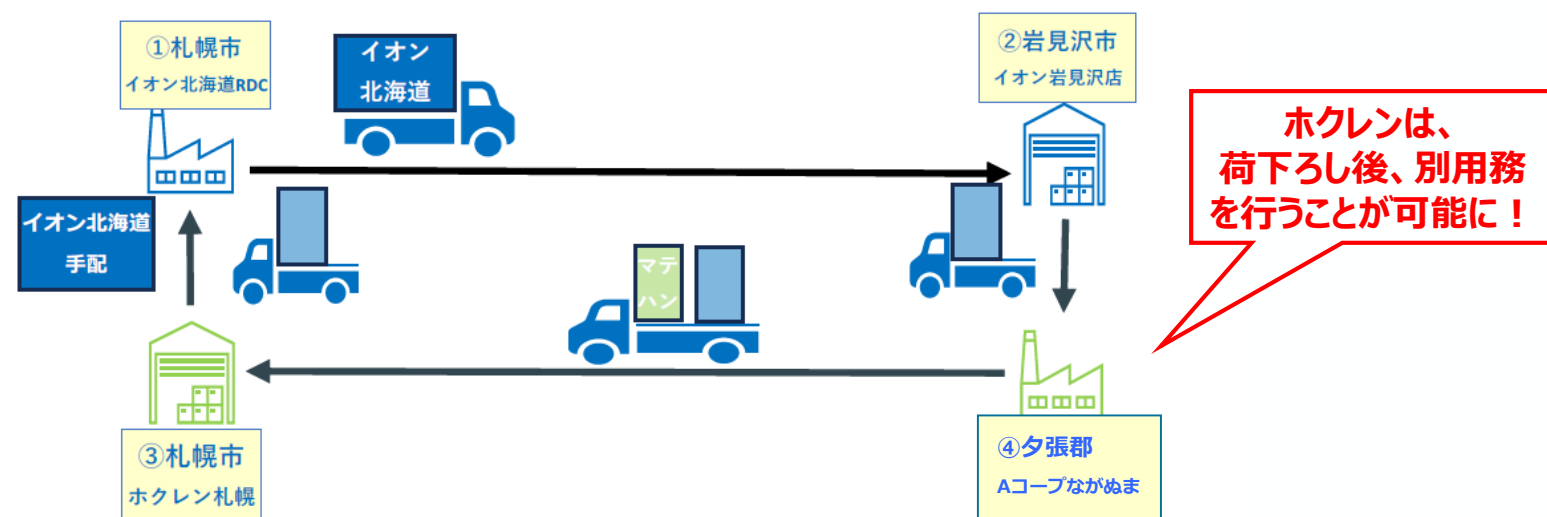
○荷動きや規模などの異なる多様な事業者の参画が重要

- 輸送量の大きな事業者は、札幌以外も含めた都市部を発地とすることが多い傾向。
- 一方、輸送量の小さな事業者は、地方部を発地として、輸送量の大きな事業者とは異なる荷動きや輸送区間をもつことも多い。
- 今後、より一層のデジタルマッチングを推進し、道内の共同輸配送を促進するためには、荷動きや規模などの異なる**さまざまな事業者が参画することにより、多くのマッチング機会創出が重要。**

共同輸配送デジタルマッチングシステムを活用した事例

- 本デジタルマッチングシステムの効果検証のため、イオン北海道とホクレンにおいて、実証事業を実施。
- ホクレンは、Aコープながぬまでの荷下ろし後、マテハンを積んで札幌まで戻る必要があったところ、イオン北海道がAコープながぬまを經由しホクレンのマテハンを積んで札幌まで戻ることにより、効率化に寄与。

イオン北海道×ホクレンの実証事業による効率化イメージ



＜従前スキーム＞ ホクレンはAコープながぬまで荷下ろし後、マテハンを回収して札幌まで戻り、イオン北海道はイオン岩見沢店で荷下ろし後、マテハンを回収して札幌まで戻っていた。

＜実証事業内容＞ イオン北海道がイオン岩見沢店で荷下ろし・マテハン回収後、Aコープながぬまを經由・ホクレンのマテハンを回収して札幌まで戻ること、ホクレンはAコープながぬまでの荷下ろし後に別用務を行うことができるようになることにより、物流効率化に寄与。

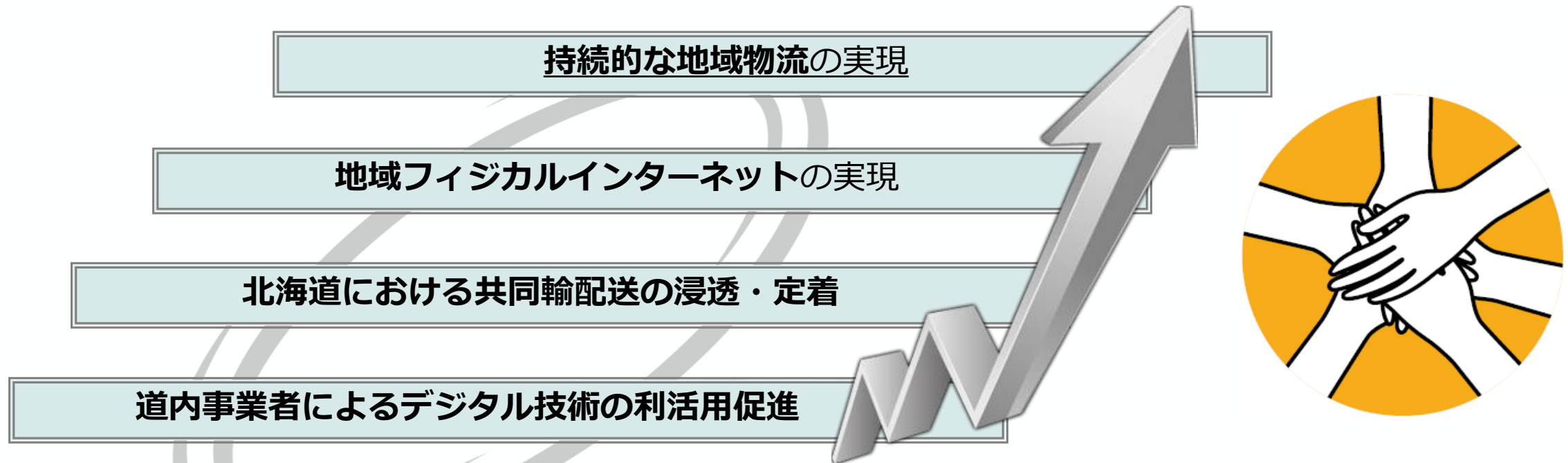
イオン北海道（センコー）のトラックにホクレンのマテハンが回収されている様子



共同輸配送デジタルマッチングの有効性

- 荷動きの異なる異業種の相手探しが困難である中、共同輸配送デジタルマッチングは、積載率向上に向けた有効な手段。**北海道における長距離便の共同輸配送には、まだまだ高い可能性がある。**
- 今後、持続的な地域物流を実現するため、デジタル技術の利活用による物流効率化は必要不可欠であることから、**共同輸配送のためのデジタルマッチングを一層促進することが重要。**

共同輸配送デジタルマッチング事業の今後



※本デジタルマッチング事業は、一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会（TDBC）の事業として、継続実施。

※“北海道物流WEEK2025”内のイベント「2月21日（金）物流・DX展示会」に本デジタルマッチングシステムを出展予定。